

梅雨の季節です。梅雨といえば紫陽花、かたつむり、そして蛍。今や、街中ではなかなか見られませんが、懐かしい風情ですね。

現在会員登録数 1,682 人さま。ご愛読ありがとうございます。次号は 7 月 22 日発行の予定です！

◆◆◆ 目次 ◆◆◆

【1】お知らせ

【2】コラム

《1》 YO! この本読んだ? Yasuko's & Okiko's Talk

《2》 読書活動ボランティアのためのワンポイント 58

《3》 サイト紹介 -子どもの本をリサーチする-

《4》 行って来ました!

【3】全国のイベント紹介

【4】プレゼント

【1】お知らせ

● 子どもの本の展示とイベント

「世界の国からこんにちは：70年万博と世界の絵本展」

1970年の大阪万博から45年。世界各国の絵本 約100冊と当時のパンフレットなどの万博グッズを展示します。

期 間：7月11日（土）～7月26日（日）午前10時～午後5時 水曜休館

会 場：EXPO'70パビリオン1階ホワイエ（吹田市万博記念公園内）

入場料・参加費：無料 ただし、万博記念公園自然文化園の入園料が必要

主 催：一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団

一般社団法人 関西環境開発センター

後 援：大阪府立中央図書館

助 成：日本万国博覧会記念基金事業助成金

会期中、下記イベントを実施します。

◇いろいろ遊びコーナー

◇「行ってみたいこんな国」メッセージコーナー

◇おはなし会「世界の国からこんにちは」

日 時：7月20日（月・祝） ①午後1時～ ②午後3時～

対 象：幼児、小学生

出 演：おはなしポップ

◇絵本づくりワークショップ「ことばあそび絵本をつくろう」

詳細は → [http://www.iiclo.or.jp/03\\_event/02\\_lecture/index.html](http://www.iiclo.or.jp/03_event/02_lecture/index.html)

● 寄付金を募集しています

当財団の運営を応援いただける個人、法人の皆さまからのご寄付を募ってい

ます。寄付金は、当財団が行う講座・講演会など、さまざまな事業経費に充てさせていただきます。ぜひ、ご協力いただきますようお願いします。  
お申し込み、詳細は → <http://www.iiclo.or.jp/donation.html>

---

## 【2】コラム

---

\*\*\*\*\*

《1》 Y O ! この本読んだ? Yasuko's & Okiko's Talk

\*\*\*\*\*

『マザーランドの月』 サリー・ガードナー/著 三辺律子/訳

五十嵐大介/装画・本文イラスト 小学館 2015年5月 対象年齢：中学生以上

あらすじ：マザーランドに住む15歳のスタンディッシュは両親が行方不明のため、祖父と二人暮らし。両目の色が違って、難読症のため、クラスでひどいじめに遭っていたが、隣の空き家に住み始めた科学者ラッシュさんの息子、ヘクターと親友になる。マザーランドでは、マスコミが宇宙飛行士による人類初の月着陸を騒ぎ立てていたが、一方で、徹底的な思想統制が行われていた。

O：ドキドキしながら読みました。

Y：謎解きの要素がたっぷりでした。「マザーランドってどんな国?」「スタンディッシュの両親はどうなったのか?」「なぜ、ヘクターたちはスタンディッシュの隣に引っ越してきたのか?」冒頭にある「もしサッカーボールが塀の向こうへいってなかったら。もしヘクターがそれを探しにいかなければ。」とはどういうことか? 1回目は、答えを知るために読み、2回目は答えのヒントを探しながら読みました。

O：人類初の月着陸は1969年。でもこの作品では1956年。隅々まで、神経が行き届いていて。いわゆる歴史改変SFといわれるジャンルですが、一歩間違えたら、こんな歴史があったかもしれないと思わせる不思議さを持っていますね。

Y：その当時にあったものと、改変されたもの、過去の歴史の中で同じようなことが起こったことなどに思いをめぐらせながら読みました。その中で政治、思想統制、民族差別、障がい者差別、いじめ、宗教、暴力、階級など、社会的な問題が描かれ、現代社会の問題が照射されています。それらが、スタンディッシュの視点で描かれているため、読者は恐怖や不安感などを追体験することができます。

O：結末まで読んでもらいたいのでどうなるかは控えますが、最後まで惹きつけられ、考えさせられる作品でした。

Y：著者が14歳まで難読症であったということと関連しているのかもしれませんが。スタンディッシュのおじいさんも読み進めるにつれ、ユニークな人物であることがわかっておもしろかったです。

O：事実の描写と独白が交差する短い章立てで、語りがうまく、とても読みやすかった。原題は *Moggot Moon*、「蛆虫の月」と訳すことも可能で、表紙には月から蛆虫が突き出ています。ガードナーによる表紙や挿絵は作品と一体化しています。日本の1970年代のイギリスで出版されたディストピアの近未来SFの数々が思い出されます。中でも、ウィリアム・コーレット『エデンの門』『月の裏側』（岩波書店）を再読したくなりました。

\*\*\*\*\*

《2》 読書活動ボランティアのためのワンポイント 57

\*\*\*\*\*

その9 おはなしを語る(3) おはなしを選ぶ 8

今回から数回に分けて、当財団所属のおはなしボランティアグループ「おはなしポップ」で昨年行った研修内容(\*)を元に、「おはなしを選ぶ」について考えていきたいと思ひます。

この研修では、「鳥のみじい」をテーマにし、実際に子どもに語っている3人の語り手に、みんなの前で語ってもらって、共通点や相違点を通して、おはなしを選ぶ観点について話し合いました。

3人はそれぞれ以下のテキストを使っていました。

- 1 「鳥のみじい」『子どもに語る日本の昔話2』稲田和子・筒井悦子/再話  
こぐま社 1995年12月
- 2 「鳥のみじさ」『雪の夜に語りつぐ』笠原政雄/語り 中村とも子/編  
福音館書店 1986年5月
- 3 「とりのみじい」『とんとんむかし その1』小松崎進/著 鳩の森書房  
1976年8月

3つのテキストに共通するあらすじは、おじいさんがうっかり鳥を飲み込み、おへそから鳥の尾が出たのでそれを引くと鳥の美しい鳴き声が聞こえ、殿様に聞かせてどっさりほうびをもらおうというものです。1はそこでおしまい。2は、おじいさんは町中歌い歩きますが、ついには羽がもげて鳴かなくなるという結末で、3は、隣の怠け者のおじいさんが、からすを飲み込んで、からすは、しゃがれ声で鳴き、殿様に聞かせて家来に放り出されるという結末です。

さて、3つのおはなしを耳で聞いて、どれがおもしろかったかを検討しましたが、結論から言うと、どれもおもしろかったのです。それはどういうことかを、次回から検討していきます。

\* 研修は2014年9月に行い、講師は当財団特別専門員の川内五十子さんでした。

\* 次号は「その9 おはなしを語る(3) おはなしを選ぶ 9」の予定です。  
質問や意見をいただきましたら、お答えしていきたいと思ひます。(Y)

\*\*\*\*\*

《3》 サイト紹介 ー子どもの本をリサーチするー

\*\*\*\*\*

資料所在情報データベース補遺篇〈その8〉

ご紹介するのは以下のサイトです。

●お茶の水女子大学附属図書館 倉橋文庫

[http://www.lib.ocha.ac.jp/kurahashi\\_bunko.html](http://www.lib.ocha.ac.jp/kurahashi_bunko.html)

児童心理学者の倉橋惣三(明治15年~昭和30年)は、明治以降の日本の幼児教育の発展に尽力した人として知られています。その一方で、『コドモノ

クニ』をはじめとする絵雑誌の執筆者として、児童文学・児童文化においても多大なる足跡を残しました。

この文庫は、東京女子高等師範学校（現・お茶の水女子大学）附属幼稚園に長く関わった倉橋を記念し、昭和35年に創設されたそうです。HPによると、〈倉橋惣三の著作を始めとして、幼児教育およびその関係領域の専門書（和書、洋書）を含め、児童文学の図書も集めている〉とのこと。倉橋の旧蔵資料ということではないようですが、それでも図書や雑誌、楽譜など、約800点の資料が所蔵されています。

図書では、古いもので『保育唱歌 明治十六年』（清水たづ：譜）や明治20年の『教育小児遊戯 年中行事』（長谷信道、松成堂）などがあります。前者は、収録されている85の曲目を掲載するとともに、すべての画像をオンラインで見ることができます。

また雑誌では、『婦人と子ども』（フレーベル会編）の1巻1号（明34年1月）から18巻12号（大7年12月）までや、その後継となる『幼児教育』（日本幼稚園協会）の19巻1号（大8年1月）から23巻6号（大12年6月）などが所蔵されています。そして、これら雑誌についても、オンラインで現物を見ることができます。

人形劇や紙芝居、絵本や教科書、玩具の分野にまで参画した倉橋。その名を冠する文庫だけに、幼稚園関係や口演童話、昔話、翻訳や教育など幅広い資料が揃っています。（J）

※次号は、資料所在情報データベース補遺篇〈その9〉の予定です。

\*\*\*\*\*

《4》 行って来ました！

\*\*\*\*\*

六甲オルゴールミュージアムで7月9日まで開催されている特別展「宮沢賢治の音楽世界～オルゴールが紡ぐ物語」に行ってきました。

ミュージアムには100年以上前に作られたものから新しいものまで、いろいろな種類のオルゴールや自動演奏楽器、蓄音機やSPレコードなどが収集されています。

きれいな装飾が施されたアンティークな家具のようなもの、大きな人形のもの、ピアノとバイオリンが合わさった自動演奏器など、見ているだけでも楽しめますが、実際にその音色が聞けるコンサートが開かれています。30分ごとに、レギュラーコンサートと特別展コンサートが交互に行われています。

レギュラーの回では、オルゴールのしくみなど細部を小型ビデオで大きく映して解説しながら、次々と演奏されます。観客も手回しオルゴールを演奏させてもらえるなど楽しい内容でした。

「宮沢賢治の音楽世界」の回では、この特別展のために花巻へ出向いて収録してきた駅の音や賢治が通った蕎麦屋の音などとともに賢治や作品についてのエピソードが紹介されます。「銀河鉄道の夜」「セロ弾きのゴーシュ」などの



固いものが食べられなくて、歯科医に通う。顎がはずれるほど口を開け、歯を削る音は耳をつんざく。口内の水は喉を締めつけ、風の噴射は窒息に至る。全身を硬直させた数分！は悪魔のように長い…。

そうだ、「死んで楽になろう」。診察台が倒れると静かに目を閉じ、全身の力を抜いて「死に体」になる。意識が遠ざかると、息継ぎも穏やかに、敵の作業を邪魔しなくなった。いつでも「決死の覚悟」は要るのだ…。(A)

---

みなさまのご意見・ご感想をお聞かせください。下記メールアドレスまでお願いします。原則として返信はいたしませんのでご了承ください。

●このメールマガジンは、ご登録いただきました皆様に配信しています。

●配信の登録・解除・変更は、

[http://www.iiclo.or.jp/m1\\_magazine/index.html](http://www.iiclo.or.jp/m1_magazine/index.html) パソコンからどうぞ

●このメールの送信アドレスは配信専用です。

●記事の無断転載はご遠慮ください。

---

発行：一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団 <http://www.iiclo.or.jp/>

〒577-0011 大阪府東大阪市荒本北 1-2-1 大阪府立中央図書館内

TEL：06-6744-0581 FAX：06-6744-0582 E-mail：office@iiclo.or.jp

---